厚生労働省 ひと、くらし、みらいのために Ministry of Health, Labour and Welfare

SFTS発症愛玩動物等のサーベイランス体制の構築
～人獣共通感染症病原体監視システムの概要について（ZAS：Zoonotic Agents Surveillance System）～

令和８年３月18日（水）

厚生労働省健康・生活衛生局
感染症対策部感染症対策課
動物由来感染症指導係

animal@mhlw.go.jp

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

SFTS発症愛玩動物等のサーベイランス体制の構築

背景

○これまで、感染症の侵入リスクを早期に検出するための監視インフラとしては、ウエストナイル熱の早期発見と監視を目的として、全国の協力機関がWeb経由で国内の野生動物の死亡個体の情報を登録・管理・解析できる死亡動物調査（DAS：Dead Animal Surveillance）システムを提供しており、人獣共通感染症の対策に寄与してきた。
○近年では、これに加えて、愛玩動物等における重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）などの病原体検査結果も含めた、動物における人獣共通感染症の感染状況をより包括的に把握し、ヒトへの感染予防対策を行うため、一元的かつ効率的に情報を収集・管理できるシステムを整備する必要性が高まってきた。

概要

○重症熱性血小板減少症候群（SFTS）については、一昨年10月に「病原体検出マニュアル（動物由来検体）」が作成され、検査方法が公開された。
○SFTSV感染動物の把握のためのサーベイランス体制を構築するため、既存のDASシステムに新たに愛玩動物等の病原体検査の管理機能等を追加した。
○システムの名称は、人獣共通感染症病原体監視システム（ZAS：Zoonotic Agents Surveillance System）とした。

【ZASの運用】
- 厚生労働省感染症対策課が統括、JIHSがシステム管理・データ解析を行う。**自治体、動物病院、大学、民間検査会社**、検疫所、公園事務所、その他協力機関の調査協力のもと運用。
- 国民への情報提供については、JIHSにおいてSFTSV感染動物の発生情報等を定期的に取りまとめ公表を予定。

（参考）感染症予防事業費等国庫負担金及び補助金（動物由来感染症予防体制整備事業）の活用
都道府県等が動物由来感染症に関する研修等を実施し動物由来感染症に対する予防体制整備を行う事業に要する経費の一部を補助。
＜令和７年度の活用実績例＞
京都府：府内17定点獣医療機関から毎月報告される犬猫の感染症情報を収集し、発生状況を把握し考察する。また、それらの結果を関係機関に周知する。
○ JIHS HP「京都府におけるSFTSへのワンヘルスアプローチ」https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/iasr/IASR/Vol46/546/546r09.html

今後のスケジュール

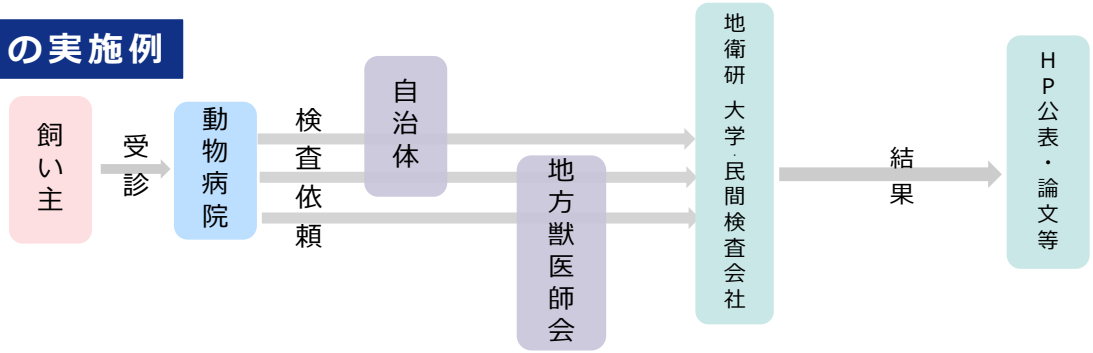
① 説明会の開催（10月）：本日（9月26日時点のSFTS患者届出地域自治体及びSFTS検査実施機関に声かけ）
② ZASの試行：６か月間程度（10～２月）
③ 必要に応じてシステムのアップデート（～２月）
④ 全国の自治体への説明会の開催（３月頃）
⑤ 自治体等への周知（３月頃）
⑥ 本格運用開始（３月頃）

【ZASのURL】https://www.zas-system.jp/



愛玩動物等のSFTS検査フローとZASの活用例

これまでの実施例

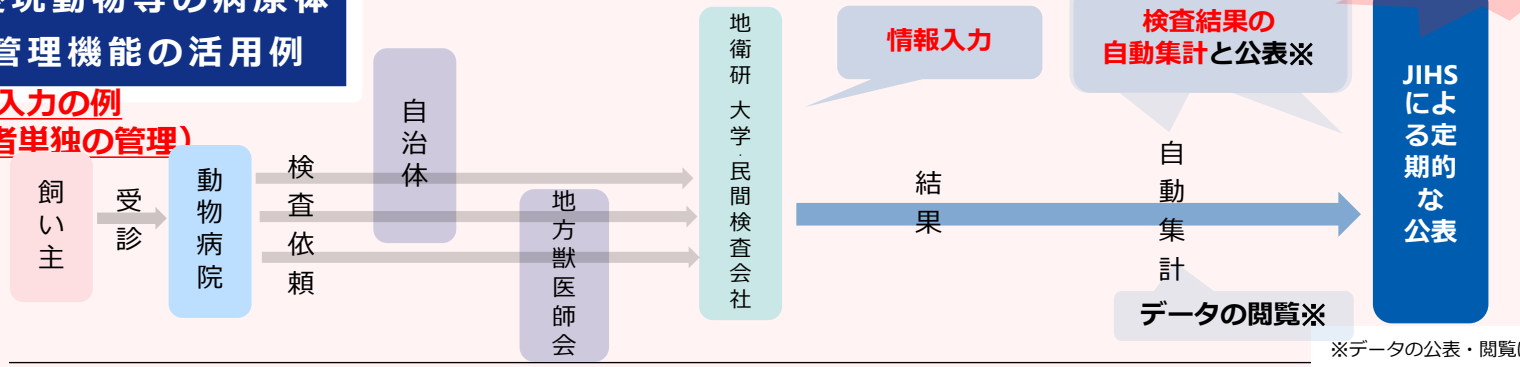


※県の事業、獣医師会の委託事業、研究事業、動物病院から直接検査機関に検査依頼等実施方法は様々

3月より **運用**

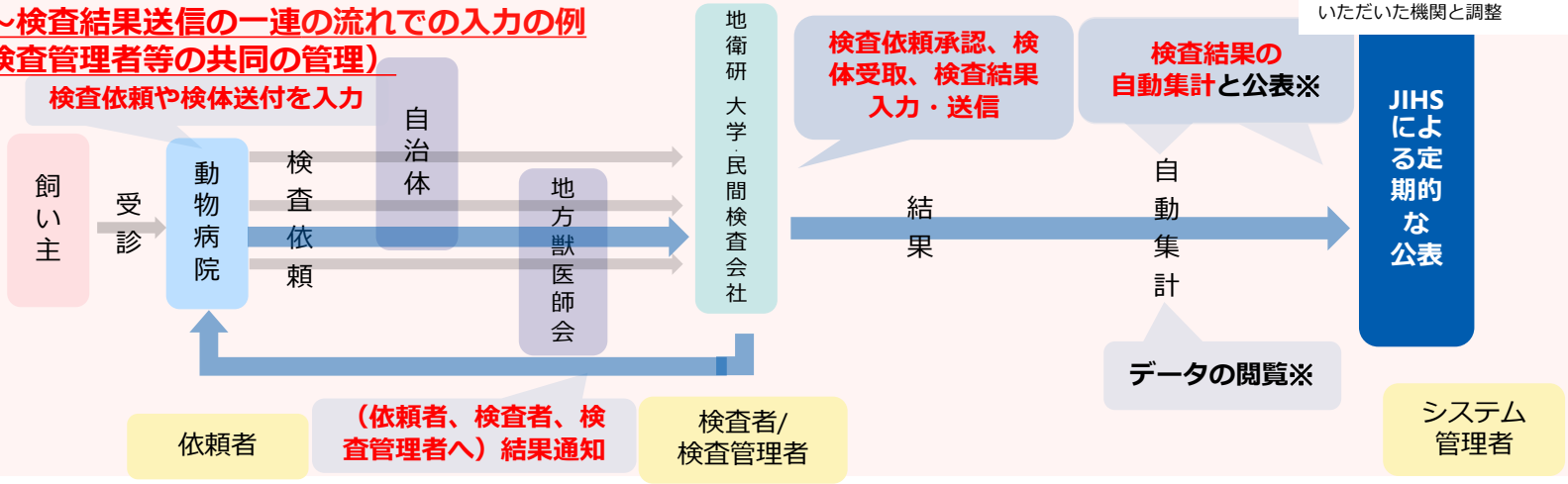
ZASの愛玩動物等の病原体検査の管理機能の活用例

① 一括情報入力の例（検査管理者単独の管理）



※データの公表・閲覧は結果入力に協力いただいた機関と調整

②検査依頼～検査結果送信の一連の流れでの入力の例（依頼者と検査管理者等の共同の管理）



重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

2025年３月５日時点　四類感染症

感染経路

- 野外に生息するマダニに吸血された際、マダニが保有していたSFTSウイルスが体内に入り感染する。
- SFTSを発症したネコやイヌの体液等からの感染、ヒト-ヒト感染の報告もある。

症状　主な初期症状は発熱、全身倦怠感、消化器症状で、重症化し、死亡することもある。

治療　対症療法（※国内では、抗ウイルス薬アビガン（一般名：ファビピラビル）の使用が承認されている。）



啓発ポスター

国内の発生状況

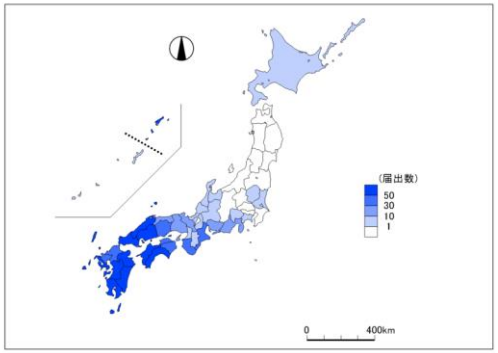
- 平成25年1月、SFTSの症例を国内で初めて確認。
- それ以降これまでに、西日本を中心に、全国で1,252例が確認されている。
  （令和８年１月31日までの累計）
- マダニの活動が活発な春から秋にかけて患者が多く発生している。

<SFTSの発生状況>（令和８年１月31日現在）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
発生件数	40	61	60	60	90	77	102	75	111	116	134	121	191	1
死亡件数	14	16	11	8	8	4	5	5	9	12	9	11	15	0

※死亡件数は届出時までに死亡例として届出された件数
（R6～R8の報告数は速報値）

図3. SFTS届出症例の**推定感染地域**（n=1,252、2026年1月31日現在）





- これまで西日本を中心として推定感染地域の報告がなされていたが、全国的に感染リスクがあると考えられる。

厚生労働省の対応

- 平成25年、自治体へ検査試薬を配布し、全国でヒトのSFTS検査体制を整備。
- 平成30年、SFTSに関する診療の相談が可能な医療機関について、自治体へ情報提供。
- 国民や関係団体、自治体等に対し、ポスターやホームページ、SNSにより、SFTS対策としてダニに刺されないよう注意喚起するとともに、飼育ネコ・イヌのダニの確認をすること、症状がある場合は速やかに医療機関で受診することについて注意喚起している。また、獣医療従事者等の専門家にむけた感染予防対策についても周知している。
- 令和６年３月、SFTS患者から医療従事者へのヒト-ヒト感染事例について、自治体等へ情報提供。
- SFTSの治療法として、ファビピラビルの有効性について、平成28年度から研究班において臨床研究が行なわれ、令和５年に希少疾病用医薬品（オーファンドラッグ）に指定、令和６年８月薬価収載された。
- 令和7年11月、「重症熱性血小板減少症候群（SFTS） 診療の手引き 2025年版」を改訂版として作成し公開した。

